

各位

本日(9月27日)弊社にて開催いたしました、
「株式会社アルバック第103回定時株主総会
及び株主懇談会」のプレゼンテーション資料
を開示いたしますので、よろしくご査収の
ほどお願いいたします。

株式会社 アルバック

第103回 定時株主総会

平成19年9月27日

株式会社 アルバック

事業の経過及び成果

■ 経営環境

▶ 日本経済:

- ◆ 個人消費と設備投資は加速感に乏しい。
- ◆ アジア向け輸出が好調を維持。穏やかな拡大基調が継続。

▶ 世界経済:

- ◆ 米国: 住宅市場の調整が続き個人消費に陰り。
設備投資、輸出が伸び、企業部門は堅調さを維持。

▶ アジア経済:

- ◆ 中国を中心に輸出や設備投資が堅調に推移し、
高成長を維持。

■ 事業環境

▶ FPD (フラットパネルディスプレイ)、電子部品及び半導体関連業界

- ◆ 一部のお客様での生産調整による設備投資計画の延期。
- ◆ 大画面テレビ、携帯電話、携帯音楽プレイヤーなどのデジタル家電関連で堅調に推移。
- ◆ エネルギー・環境関連で、環境対応型のハイブリッドカー関連や太陽電池への設備投資が開始。



大画面テレビ



太陽電池



ハイブリッドカー

■ 当社グループの対応

▶ 営業活動

- ◆ 独創的な新製品を競合他社に先駆け市場投入。
- ◆ アルバックソリューションズの推進で積極的な受注活動。

▶ 投資

- ◆ 成長する地域の中国、韓国、台湾へ積極的な投資。
- ◆ 「ポストFPD戦略」を見据えた日本国内での工場新設。

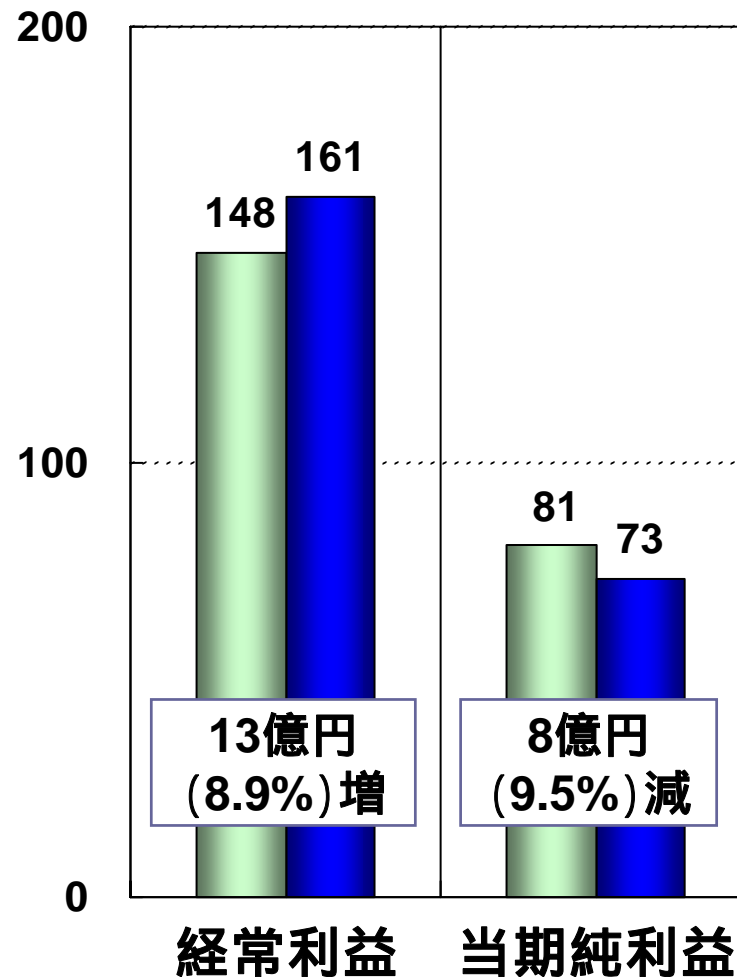
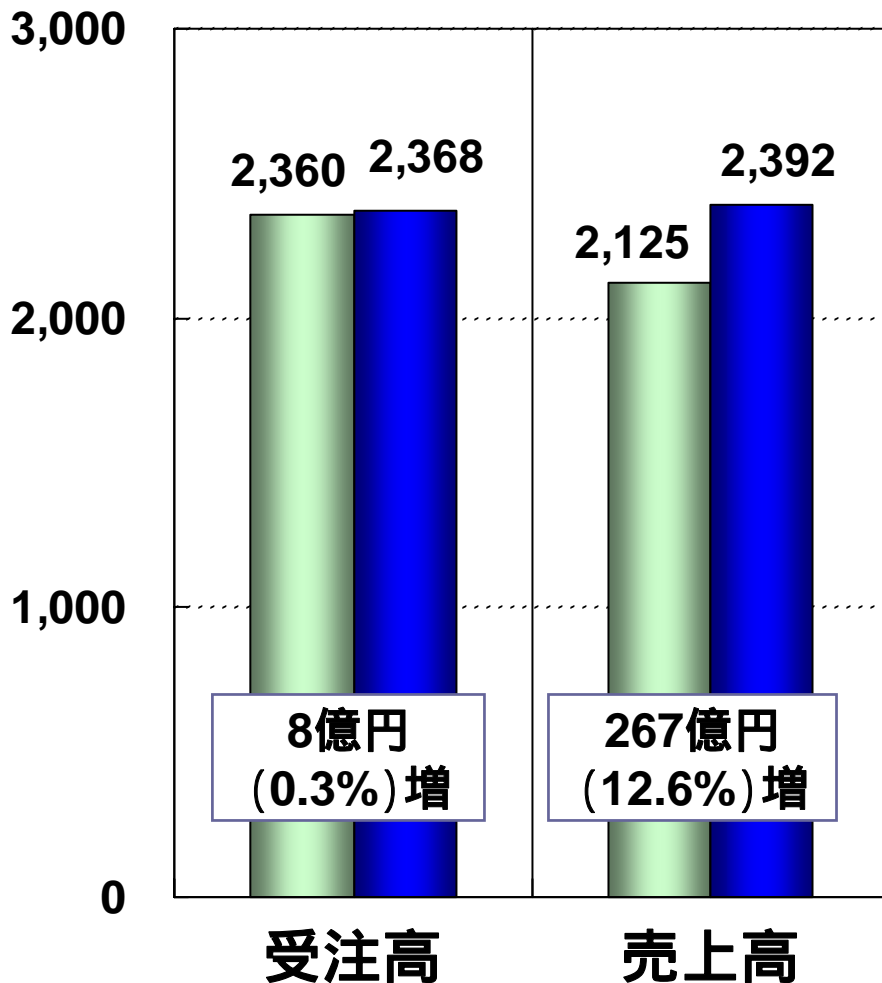
▶ 生産改革

- ◆ 生産改革の推進によりコストダウンや品質向上を図る。

▶ 固定費の圧縮

第103期 (H19/6期) 業績 (連結)

【単位: 億円】



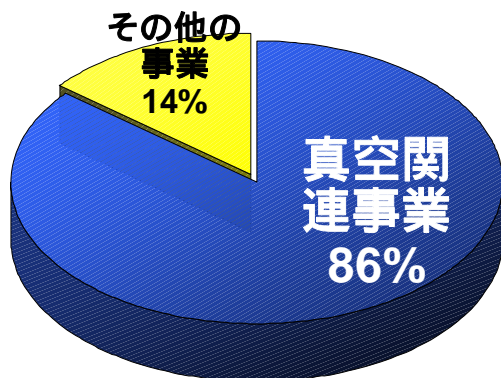
【()内は増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

企業集団の事業セグメント別状況

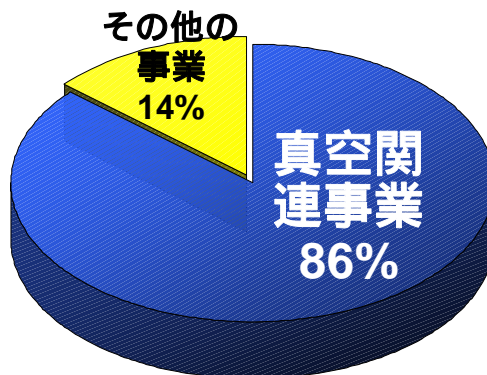
【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)		前期比(%)
真空関連事業 (営業利益)	2,030	99	2,066	114	1,126	99
その他の事業 (営業利益)	-	-	147	-	-	-
その他の事業 (営業利益)	338	107	325	104	77	139
その他の事業 (営業利益)	-	-	16	-	-	-
合計	2,368	100	2,392	113	1,204	101

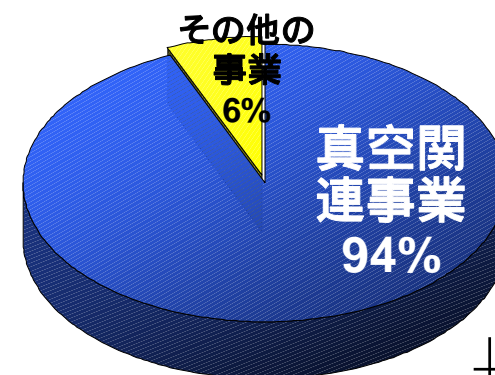
当期受注高



当期売上高



期末受注残高



【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

真空関連事業(1)

■ディスプレイ及び電子部品製造装置

▶アジアで中小型液晶や大画面テレビの設備投資が積極的に行われ、「SMDシリーズ」「SDPシリーズ」などの売上が好調。

◆一部のお客様の液晶、プラズマディスプレイなどの設備投資計画の延期で、下期は受注が大きく減速。

▶電子部品製造装置は「SRHシリーズ」などの受注、売上が好調。

液晶ディスプレイ用
枚葉式スパッタリング装置



SMDシリーズ

インライン式
スパッタリング装置



SDPシリーズ

パワーIC用
スパッタリング装置



SRHシリーズ

真空関連事業(2)

■半導体製造装置

- ▶ デジタル家電関連(携帯電話、携帯音楽プレイヤー、携帯情報端末など)用フラッシュメモリ、DRAMなどメモリ、化合物半導体(発光ダイオードなど)の設備投資が積極的に行われた。
- ▶ スパッタリング装置「ENTRON™-EXシリーズ」やバッチタイプ自然酸化膜除去装置「RISEシリーズ」などの受注や売上が好調。

スパッタリング装置



ENTRON™-EXシリーズ

自然酸化膜除去装置



RISEシリーズ

真空関連事業 (3)

■コンポーネント

- ▶ 液晶などFPD関連の設備投資の延期。ドライポンプの受注低迷。
- ▶ 自動車関連は堅調に推移。太陽電池関連の設備投資が積極的に行われ、ロータリーポンプやヘリウムリークディテクタの受注が好調。
- ▶ プロセスモニタ「Qulee」が半導体関連を中心に好調。

ドライポンプ

ヘリウムリークディテクタ

プロセスモニタ



液晶ディスプレイ
製造装置向けドライポンプ



Quleeシリーズ

真空関連事業(4)

■その他

- ▶自動車業界向けの真空ろう付炉「FBCシリーズ」や巻取式真空蒸着装置「EWシリーズ」、自動リークテスト装置「ALTシリーズ」が堅調。

真空ろう付炉



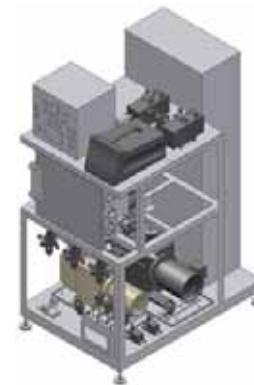
自動車業界向け
真空ろう付炉
FBCシリーズ

巻取式真空蒸着装置



コンデンサ用
巻取式真空蒸着装置
EWシリーズ

自動リークテスト装置



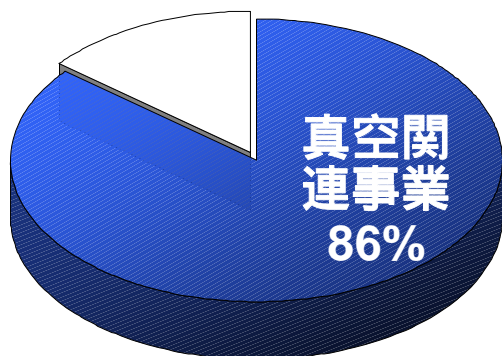
ALTシリーズ

企業集団の事業セグメント別状況

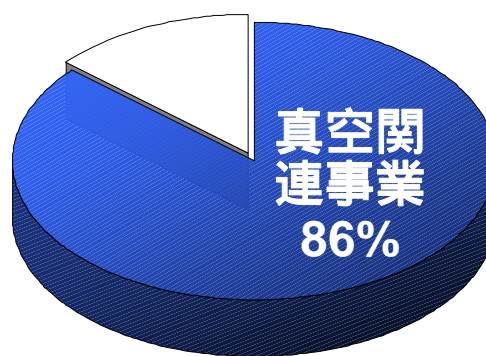
【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		期末受注残高	
		前期比 (%)		前期比 (%)		前期比 (%)
真空関連事業 (営業利益)	2,030	99	2,066	114	1,126	99
その他の事業 (営業利益)	-		147		-	
その他の事業 (営業利益)	338	107	325	104	77	139
合計	2,368	100	2,392	113	1,204	101

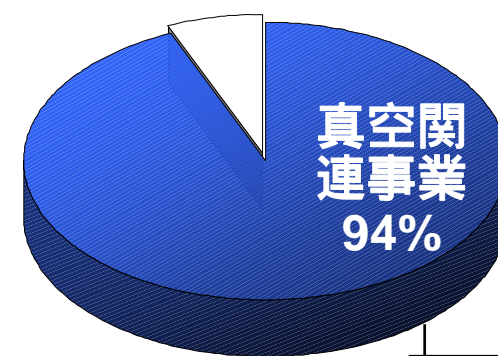
当期受注高



当期売上高



期末受注残高



【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

その他の事業

■その他の事業

- ▶ アルバックソリューションズを生かした積極的拡販活動を実施。
 - ◆ アジア中心に液晶、半導体関連用スパッタリングターゲット材料などの材料ビジネスや部品洗浄の受注や売上が堅調。
 - ◆ 制御システム関連は、自動車関連向けの引き合いが堅調。
 - ◆ 分析機器関連も、受注や売上が堅調。

スパッタリングターゲット材料



液晶ディスプレイ用
スパッタリングターゲット



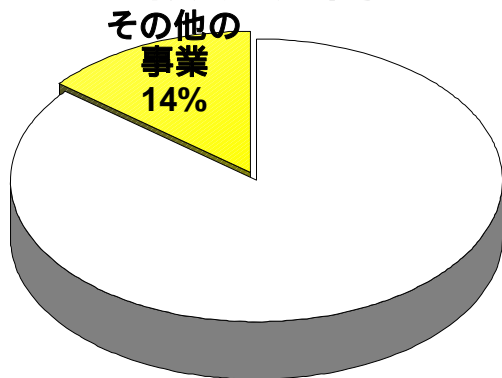
半導体用
スパッタリングターゲット

企業集団の事業セグメント別状況

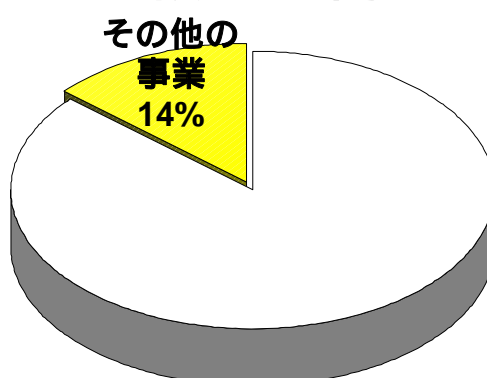
【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)		前期比(%)
真空測定事業 (営業利益)	2,030	99	2,066	114	1,126	99
その他の事業 (営業利益)	338	107	325	104	77	139
合計	2,368	100	2,392	113	1,204	101

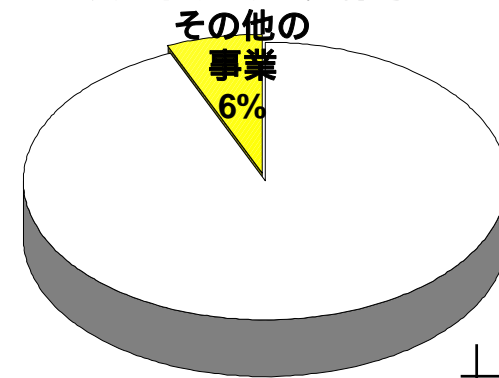
当期受注高



当期売上高



期末受注残高



【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

設備投資の状況(主なもの)

設備投資の総額: 321億円

■ (株)アルバック

FPD等製造装置用建物、電子機器関連
及び半導体のスパッタリング、CVD、
エッチングなどの評価装置



■ アルバックマテリアル(株)

電子材料製造用建物、生産設備



■ アルバックテクノ(株)

FPD等製造装置用部品の
表面処理用建物、同設備



■ ULVAC KOREA, Ltd.

FPD製造装置用建物、生産設備



資金調達の状況

- **第1回無担保転換社債型
新株予約権付社債発行(平成19年4月13日)**

155億円を調達

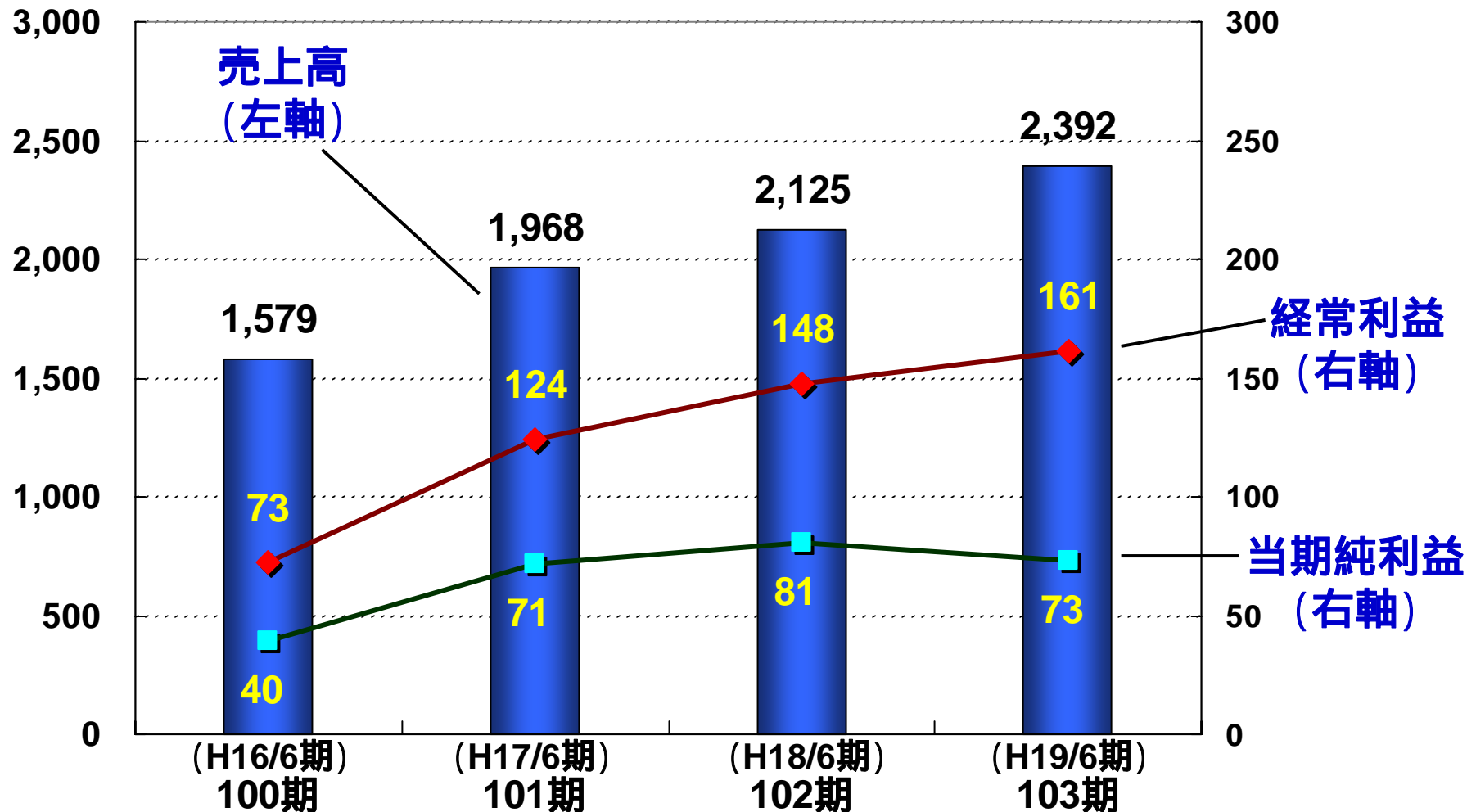
- **借入金、社債及びコマーシャル・ペーパー**

総額 843億円

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況(連結)

【単位:億円】

【単位:億円】



事業環境(1)

■ FPD・電子部品及び半導体業界の事業環境

▶ 中期的:

- ◆ FPDやデジタル家電関連分野は成長を維持。
- ◆ 液晶ディスプレイの設備投資の成長は鈍化。

▶ 長期的:

エネルギー・環境関連の太陽電池、ハイブリッドカーなど新たな成長。

▶ 地域的:

中国が著しく成長。世界経済に影響。

事業環境(2)

■ FPD・電子部品及び半導体業界の事業環境

▶ 製造装置業界

- ◆ 市場価格の下落継続。
- ◆ 製造装置メーカー間で競争激化。
- ◆ 韓国、台湾、中国メーカーが、競合先としてシェアを獲得。



厳しい競争環境が加速

■ 中長期の成長戦略

- ▶ 既存のFPD、電子部品、半導体製造装置のシェア拡大。
- ▶ FPDの次に成長する「4つの柱(ポストFPD戦略)」を積極的に推進。

4つの柱

- ◆ デジタル家電用電子部品製造装置
- ◆ エネルギー・環境関連製造装置
- ◆ 中国市場
- ◆ カスタマーサポート事業とOEM生産

ポストFPD戦略

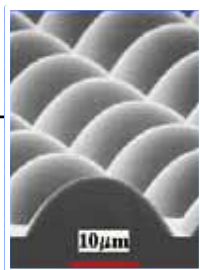
■ デジタル家電用電子部品製造装置

▶ 化合物半導体
(LEDなど)

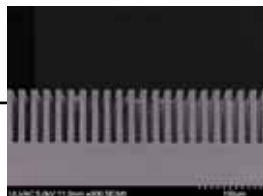
▶ MEMS

▶ 光学薄膜デバイス

▶ 高密度実装



マイクロレンズアレイ



シリコンディープエッチング



エッチング装置



光学薄膜用
スパッタリング装置



スパッタリング装置

ポストFPD戦略

■ エネルギー・環境関連製造装置

▶ 太陽電池



CVD装置

▶ ハイブリッドカー用部品

◆ 永久磁石
(モータ用希土類磁石)

◆ コンデンサ
(フィルムコンデンサ)

◆ パワーIC
(極薄ウエーハ、SiC等)



真空蒸着装置



真空焼結炉



真空溶解炉



スパッタ装置



イオン注入装置

ポストFPD戦略

■ 中国市場

- ▶ コンポーネント
- ▶ 一般産業機器
- ▶ 電子機器
- ▶ FPD・半導体



真空炉を生産する
愛発科中北真空(沈陽)有限公司

ポストFPD戦略

■ カスタマーサポート事業とOEM生産

▶ 材料、消耗部品、洗浄、サービス



液晶ディスプレイ用
スパッタリングターゲット材料



プラズマ溶射による
防着処理



精密・再生洗浄部品



陽極酸化ライン

▶ OEM生産



光学膜OEMライン(タイゴールド)

コストダウン戦略

■生産改革の推進

「良い物を安く、速く、万全のサービスを提供しながら利益を上げる」

■攻守織り交ぜた施策の実施

▶ 攻めの施策

～コストダウン、納期短縮、標準化、効率化など

▶ 守りの施策

～追加原価の発生や納期遅延を抑制

従来の生産改革に加え、グループ内垂直統合、内製化によるもの作りを強力に推進。価格競争力と収益力の向上をめざす。

受注拡大戦略

■ 既存分野

▶ 新製品開発でラインナップ増。シェアアップ。

■ 次世代技術や最先端技術市場への事業展開

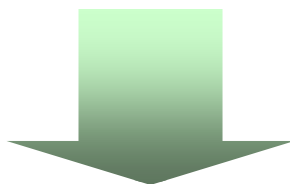
■ 「ポストFPD戦略」を推進

■ 「アルバックソリューションズ」を活用。 シナジー効果を最大限に。

財務戦略

■ 収益力の向上、運転資金の圧縮などに一段と注力

▶ 営業活動によるキャッシュ・フローの獲得



- ◆ 新商品開発戦略、グローバル化戦略の実現に向けた投資資金
- ◆ 試作開発ラインの増設等設備資金

新商品開発戦略

■ 競合他社が真似できない、独創的で最先端の新製品を開発

▶ FPD分野

◆ 大型基板ディスプレイ製造装置



縦型枚葉式スパッタリング装置

◆ 次世代ディスプレイ製造装置

(有機ELなど)

◆ インクジェットプリンティング装置



液晶ディスプレイ用
インクジェットプリンティング装置

▶ エネルギー・環境関連

◆ 太陽電池製造装置



薄膜太陽電池実証ライン

◆ 永久磁石、コンデンサ、
パワーICなどの製造装置

新商品開発戦略

■ 競合他社が真似できない、独創的で最先端の新製品を開発

▶ 半導体分野

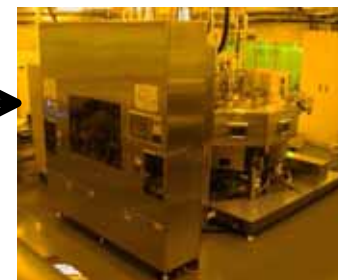
◆メモリ

◆化合物半導体

◆MEMS

◆高密度実装基板

◆光学薄膜



新商品開発戦略

■ 競合他社が真似できない、独創的で最先端の新製品を開発

▶ コンポーネント

◆ 液晶ディスプレイ製造装置用
大容量ドライポンプ



液晶ディスプレイ
製造装置向けドライポンプ

▶ 材料

◆ FPD用スパッタリング
ターゲット材料



枚葉式大型スパッタリング装置用
ターゲット材料

グローバル化戦略

成長する地域である中国、韓国、台湾を中心に事業拡大。
 米国、欧州、ロシア、インド、東南アジアなどへ事業拡大。

■中国

- ▶ 生産体制、製品品質向上
- ▶ 事業統括会社と販売・サービス会社を中心に事業展開



事業統括会社等完成予想図

■韓国

- ▶ 生産体制確立
- ▶ ものづくりの推進
- ▶ コスト競争力向上



玄谷工場



部品洗浄工場

■台湾

- ▶ 生産体制、製品品質向上



FPD製造装置工場



部品洗浄工場

真空技術をコア技術とし、製造装置や材料、サービスなど総合的なソリューションを提供するグループとして事業の拡大に努め、株主各位のご期待に応えてまいります。

連結貸借対照表(資産の部)

【単位:億円】

	102期	103期	増 減
流動資産	1,787	2,079	291
固定資産	907	1,097	190
有形固定資産	608	818	210
無形固定資産	55	38	17
投資その他の資産	243	241	3
資産合計	2,694	3,176	482

総資産の部 :482億円増加

主な要因

- ・たな卸資産 :218億円増加
- ・有形固定資産 :210億円増加
(事業拡大のための設備投資を実施)

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

連結貸借対照表(負債・純資産の部)

【単位:億円】

	102期	103期	増 減
(負債の部)			
流動負債	1,465	1,695	230
固定負債	353	537	184
負債合計	1,818	2,232	414
(純資産の部)			
純資産合計	876	944	67
負債及び純資産合計	2,694	3,176	482

負債の部 :414億円増加

主な要因・支払手形及び買掛金	: 37億円増加
・借入金(短期、長期)	:106億円増加
・前受金	: 42億円増加
・無担保転換社債型新株予約権付社債発行	:155億円増加

純資産の部 :67億円増加

主な要因・当期純利益	: 73億円計上
・配当金支払い	: 16億円

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

連結損益計算書

【単位:億円】

	第102期 (H18/6期)	第103期 (H19/6期)	前期比
売上高	2,125	2,392	267 (+12.6%)
経常利益	148	161	13 (+8.9%)
当期純利益	81	73	-8 (-9.5%)

【()内は増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

貸借対照表

	第102期	第103期	増 減
(資産の部)			
流動資産	1,086	1,325	238
固定資産	703	852	149
有形固定資産	384	545	161
無形固定資産	26	27	1
投資その他の資産	293	280	13
資産合計	1,790	2,177	387
(負債の部)			
流動負債	955	1,162	207
固定負債	240	421	181
新株予約権付社債	-	155	155
長期借入金	188	210	22
退職給付引当金	44	49	5
その他	8	6	1
負債合計	1,195	1,583	388
(純資産の部)			
株主資本	580	580	0
評価・換算差額等	14	14	1
純資産合計	594	594	1
負債及び純資産合計	1,790	2,177	387

【単位:億円】

資産の部

:387億円増加

負債の部

:388億円増加

純資産の部

:5400万円減少

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

決議事項

第1号議案

剰余金の処分の件

第1号議案 剰余金の処分の件

■ 第103期配当 (H19/6期)

- ▶ 当社では、株主の皆様への利益配分を最も重要な政策の一つと認識し、連結配当性向を主要な指標と位置付けております。

第103期の期末配当につきましては、当期の業績や次期の見通しを考慮するとともに、売上高及び経常利益が過去最高を更新いたしましたこと等を勘案いたしまして以下のとおりといたしたいと存じます。

配当財産の種類	金銭
配当財産の割当てに関する事項及びその総額	
	当社普通株式 1株につき47円 (連結配当性向 27.5%)
	配当総額 2,016,488,141円
剰余金の配当が効力を生じる日	平成19年9月28日

決議事項

第2号議案

取締役5名選任の件

第2号議案 取締役5名選任の件

[取締役候補者 (5名)]

藤山 潤樹

加藤 丈夫

佐藤 孔史

本吉 光

中野 佳信

(社外取締役)

[非改選 (13名)]

中村 久三

諏訪 秀則

山川 洋幸

桜田 勇蔵

常見 佳弘

砂賀 芳雄

福田 隆

五戸 成史

末代 政輔

小田木 秀幸

平野 裕之

山元 正年

宇治原 潔

(社外取締役)

決議事項

第3号議案

監査役4名選任の件

第3号議案 監査役4名選任の件

[監査役候補者(4名)]

中村 孝男

大井 宣夫

浅田 千秋

(社外監査役)

小宮路 幸一

(社外監査役)

[非改選(1名)]

原 稔

(社外監査役)

決議事項

第4号議案

役員賞与の支給の件

第4号議案 役員賞与の支給の件

当期末時点の社外取締役2名を含む取締役18名に対し、当期の業績等を勘案して、社外取締役分2百万円を含め、役員賞与総額1億9千1百万円を支給することといたしたいと存じます。

なお、役員賞与の支給額につきましては、役位ごとの役員報酬額に経常利益率と連動した指数を乗じた金額となっております。

株主懇談会

◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ (FPD)・半導体・電子部品業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品の市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

◆ 本資料における表示方法について

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

■ 業績予想

▶ 2008年6月期連結業績予想

▶ 事業戦略

代表取締役社長 諏訪秀則

事業環境

■ポジティブ要因

- ▶ 太陽電池分野が大きな市場としてクローズアップ
- ▶ 液晶ディスプレイ関連の設備投資再開
- ▶ 次世代ディスプレイ(有機ELなど)の大型物件の受注増が期待
- ▶ ハイブリッドカー関連、特にパワーICなどの設備投資活発化

積極的に取り組んできた分野が概ね
堅調に推移すると予想

■ネガティブ要因

- ▶ DRAMなどメモリ関連で一部の設備投資に減速
- ▶ 継続的な価格プレッシャーと材料費高騰による収益への影響

08/6期予想

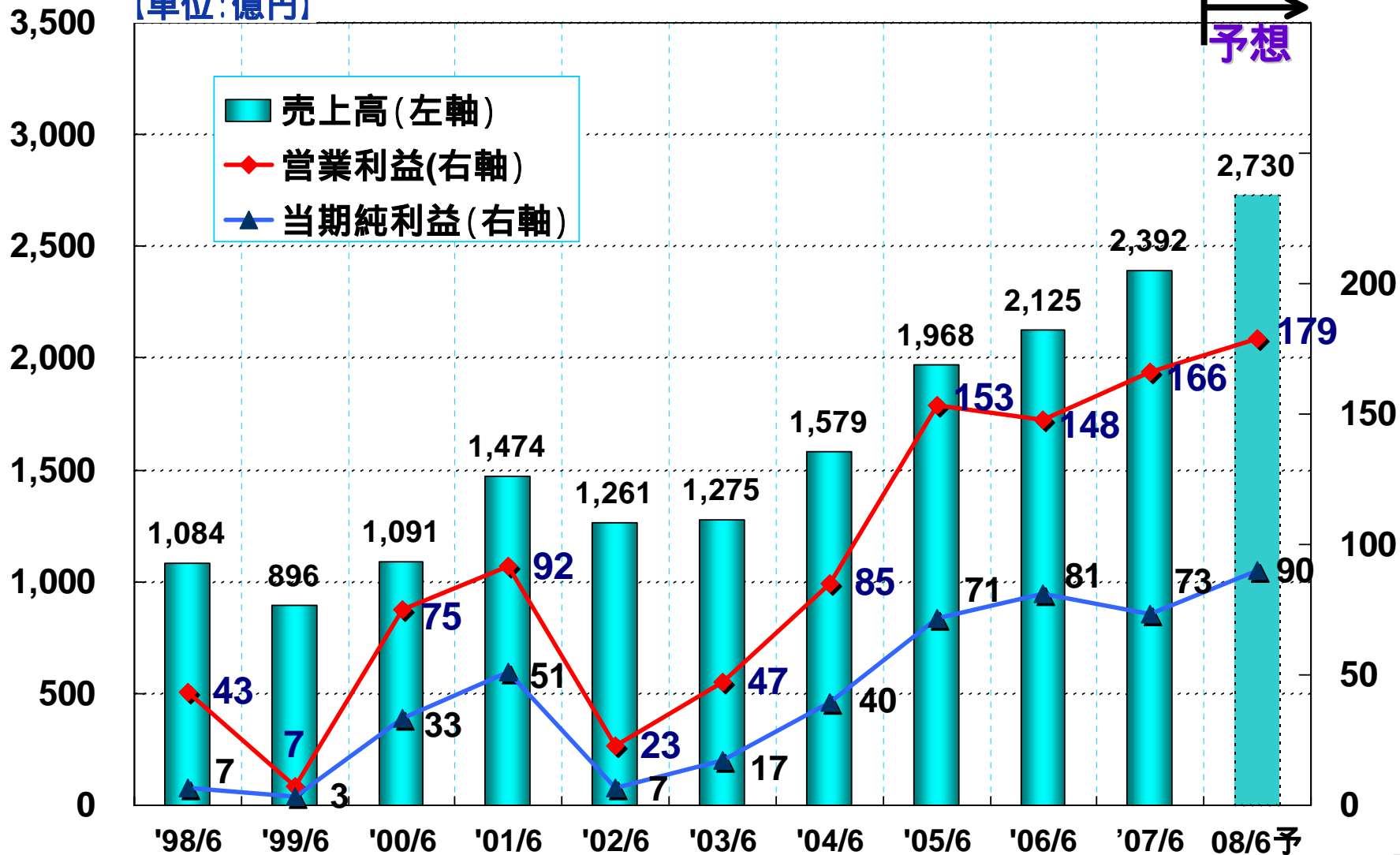
【単位:億円】

	05/6期	06/6期	07/6期	08/6期予	
				中間	通期
受注高	2,062 (+16%)	2,360 (+14%)	2,368 (+0%)	1,380 (-5%)	2,850 (+20%)
売上高	1,968 (+25%)	2,125 (+8%)	2,392 (+13%)	1,320 (+9%)	2,730 (+14%)
営業利益	153 (+81%)	148 (-3%)	166 (+12%)	64 (-40%)	179 (+8%)
経常利益	124 (+71%)	148 (+19%)	161 (+9%)	55 (-51%)	166 (+3%)
当期純利益	71 (+81%)	81 (+13%)	73 (-10%)	23 (-52%)	90 (+23%)

【 ()内は前年同期比、増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

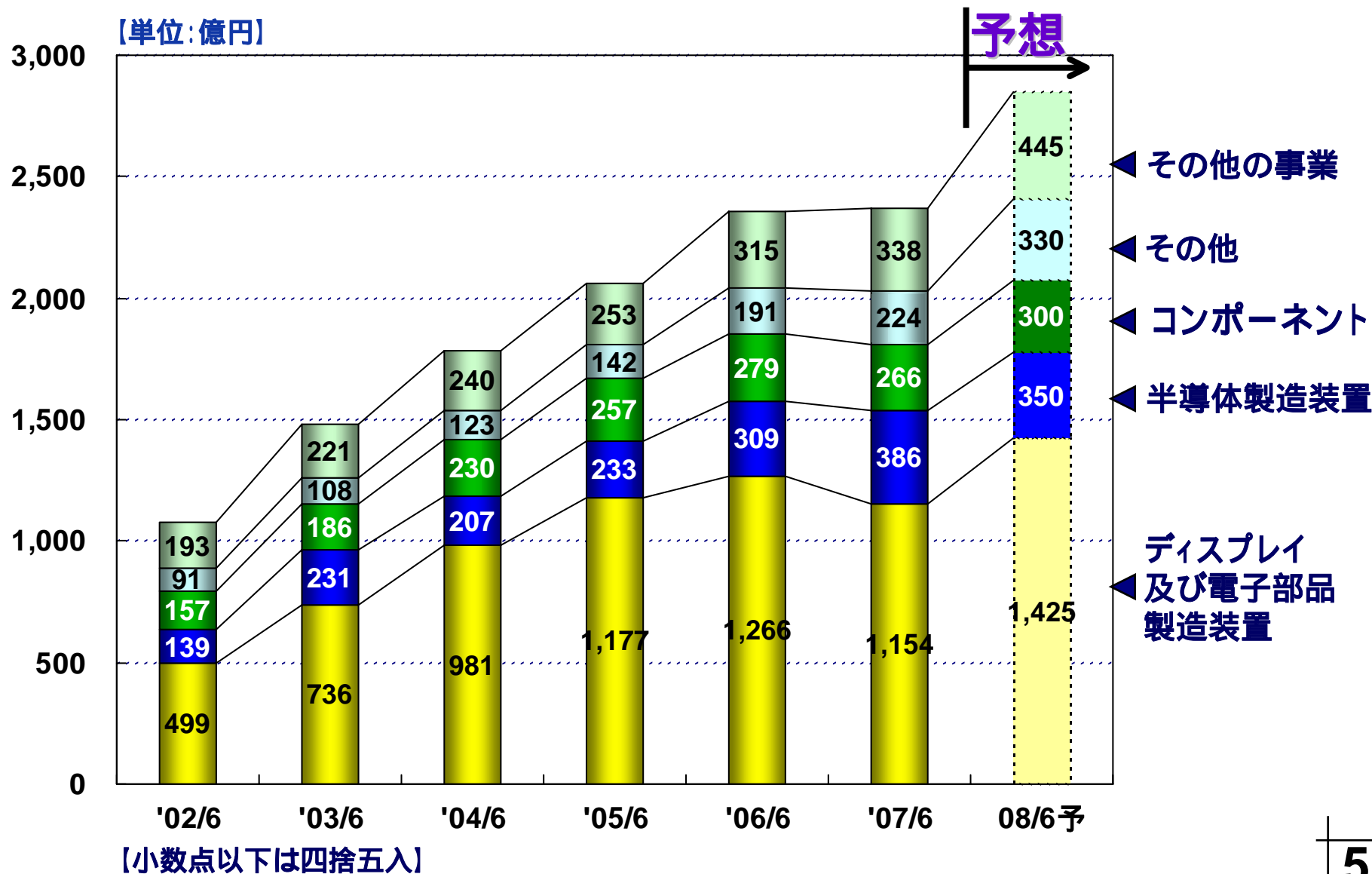
売上高と利益の推移・予想

【単位：億円】

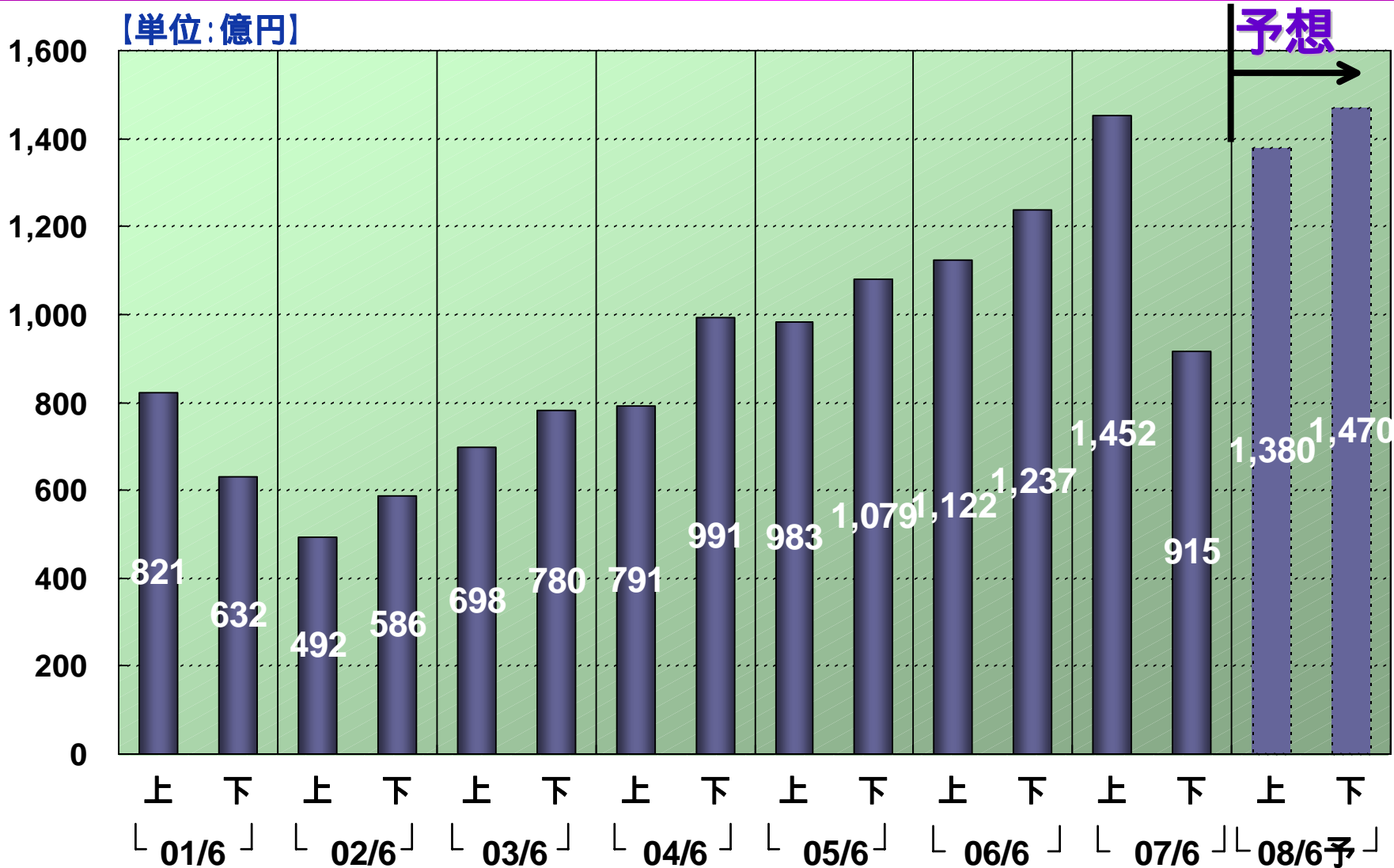


【小数点以下第2位は四捨五入】

品目別受注高実績・予想

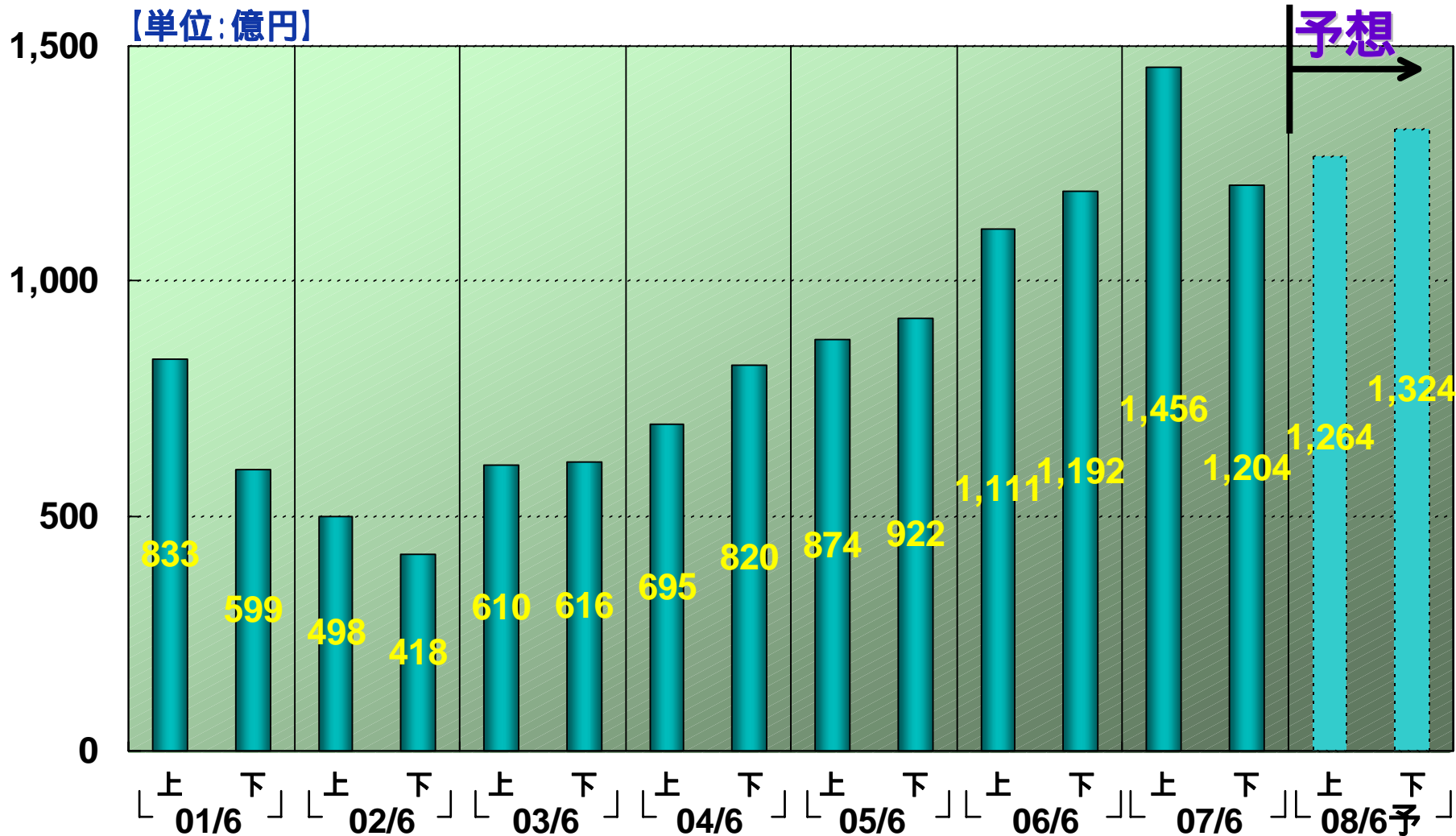


受注高推移・予想



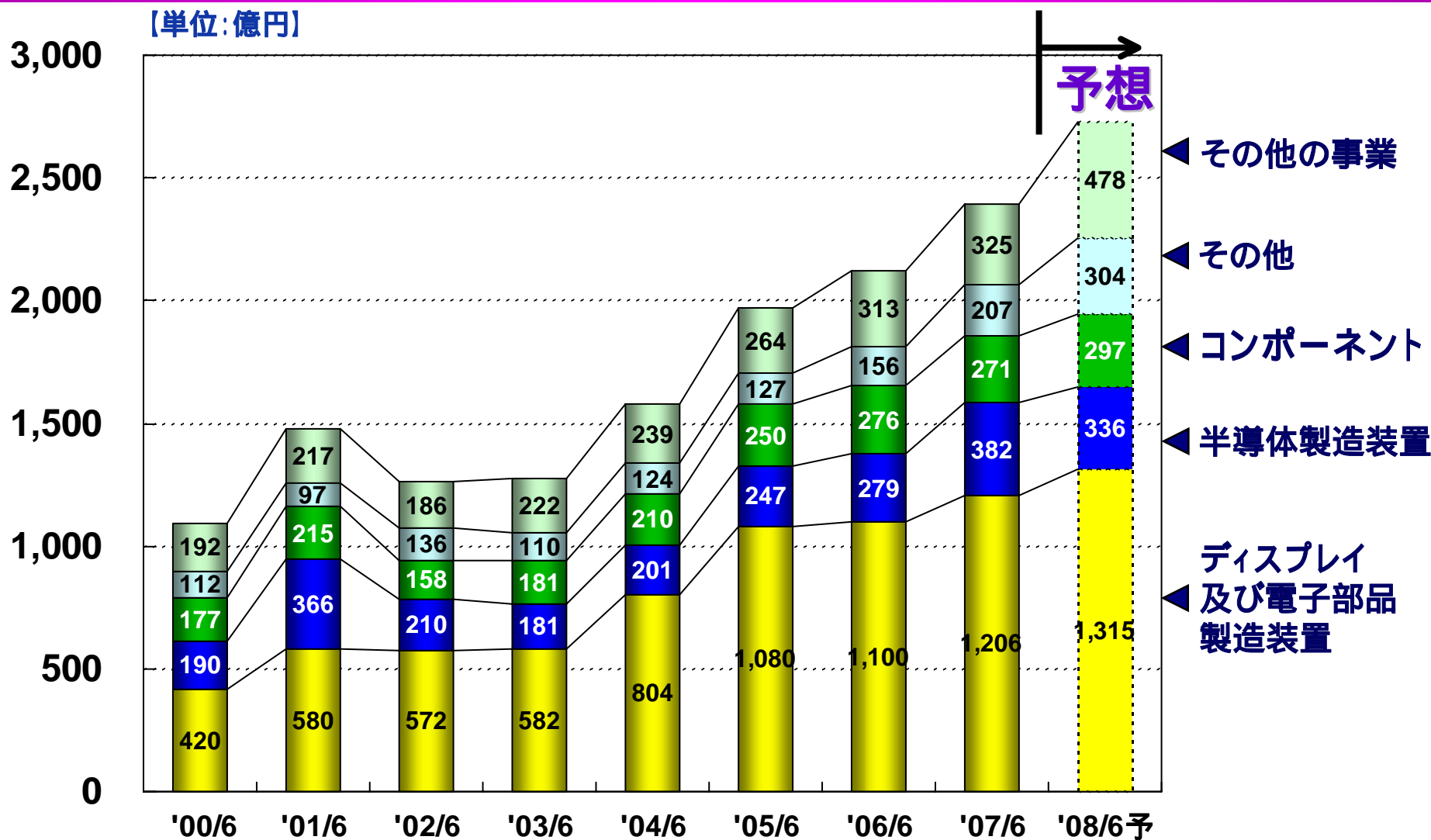
【小数点以下は四捨五入】

受注残高推移・予想



【小数点以下は四捨五入】

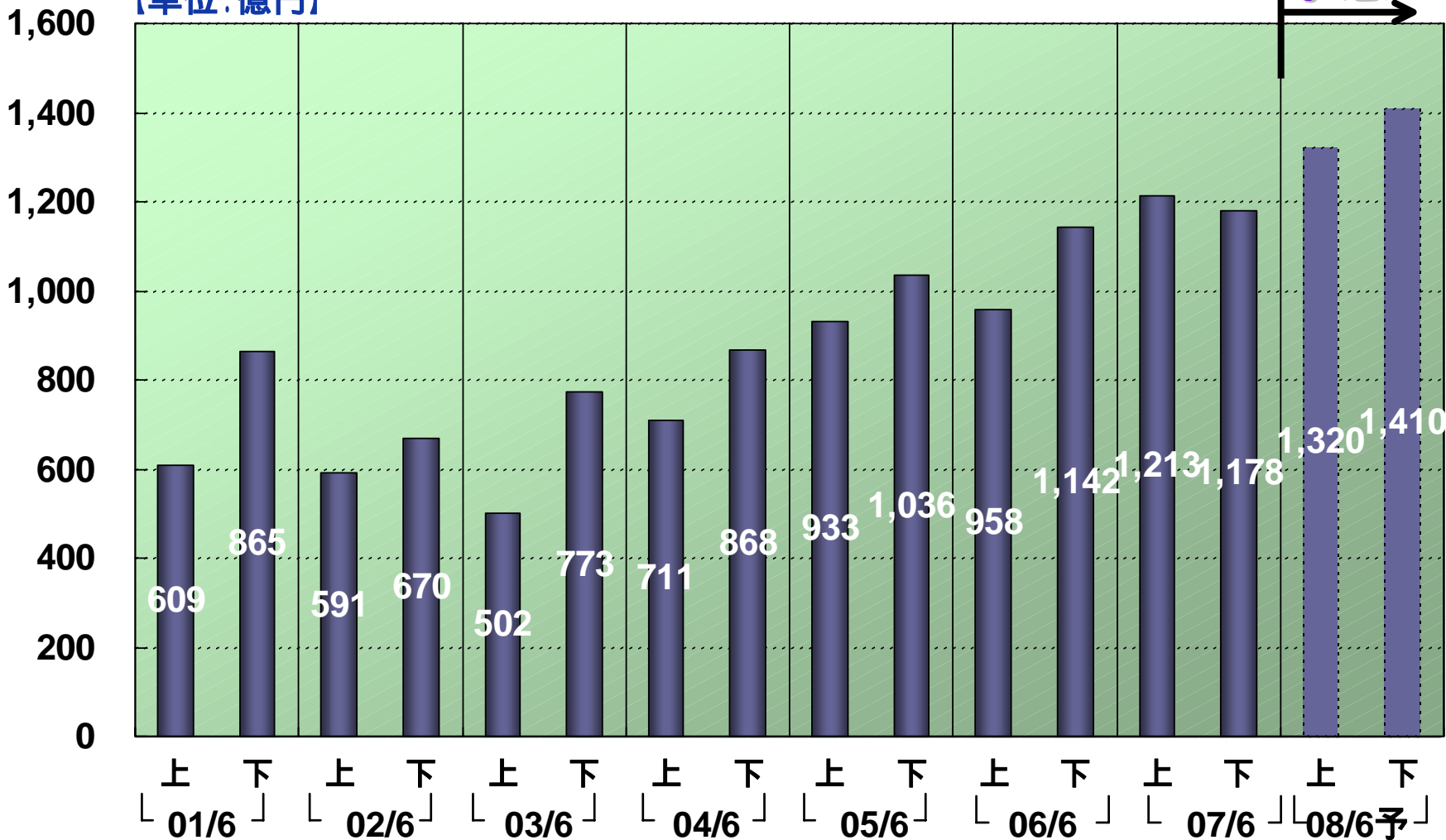
品目別売上高実績・予想



【小数点以下は四捨五入】

売上高推移・予想

【単位：億円】

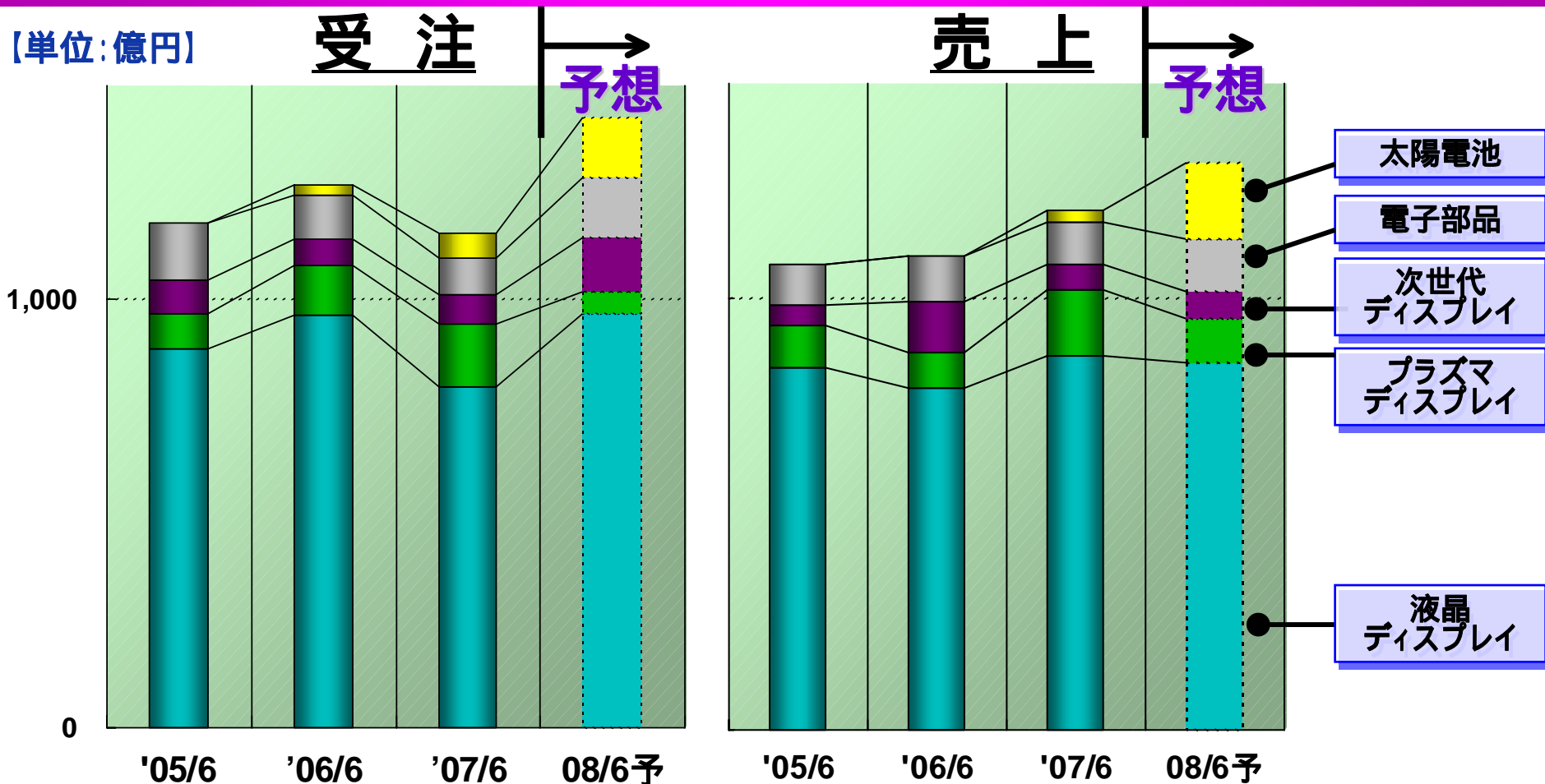


予想 →

【小数点以下は四捨五入】

ディスプレイ及び電子部品製造装置の推移・予想

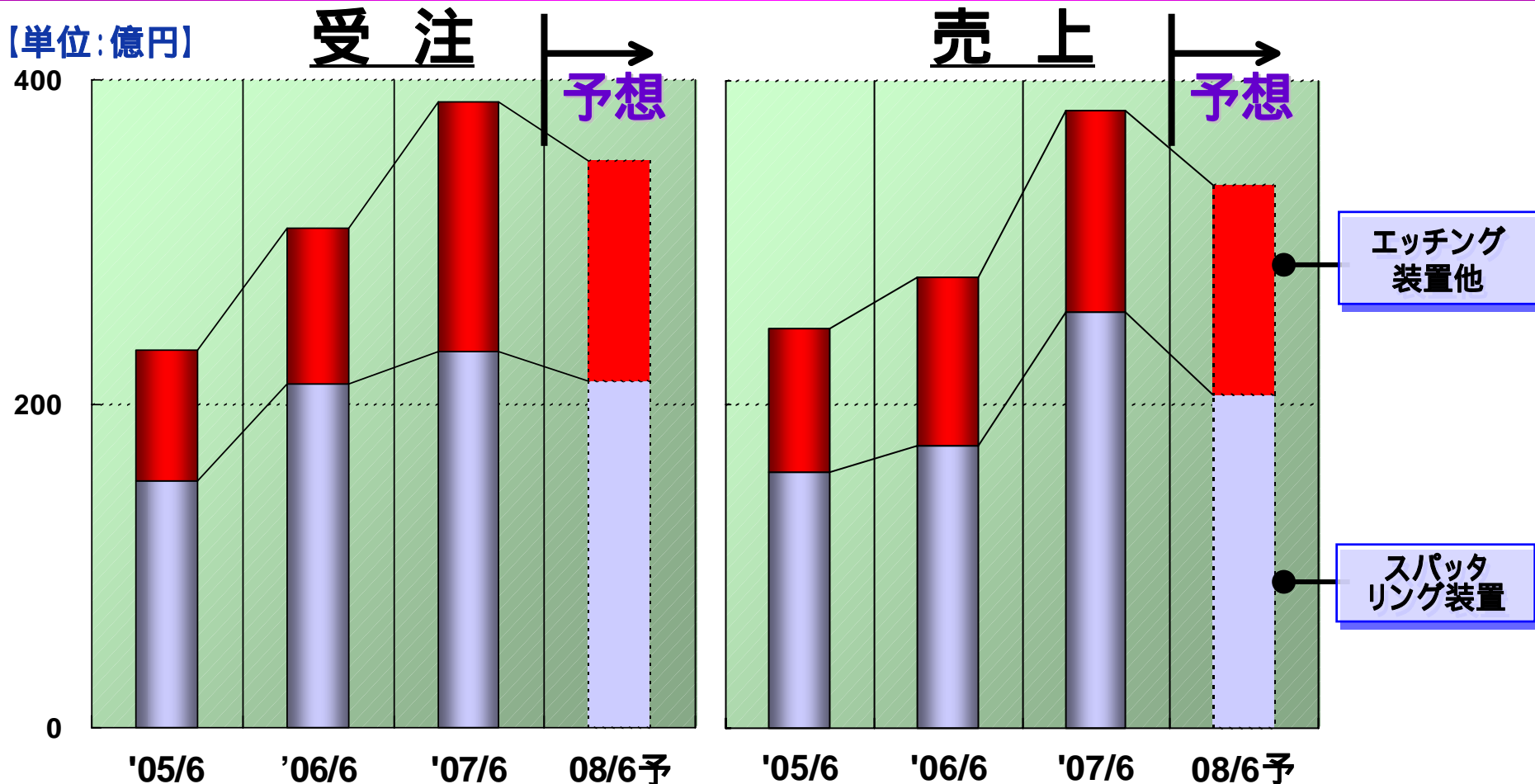
【単位:億円】



足元の受注環境

- ◆液晶ディスプレイの設備投資再開、薄膜太陽電池で受注増を見込む
- ◆有機ELなどの次世代ディスプレイの量産機の受注を見込む
- ◆電子部品は高密度実装、パワーICを中心に受注が続伸

半導体製造装置の推移・予想

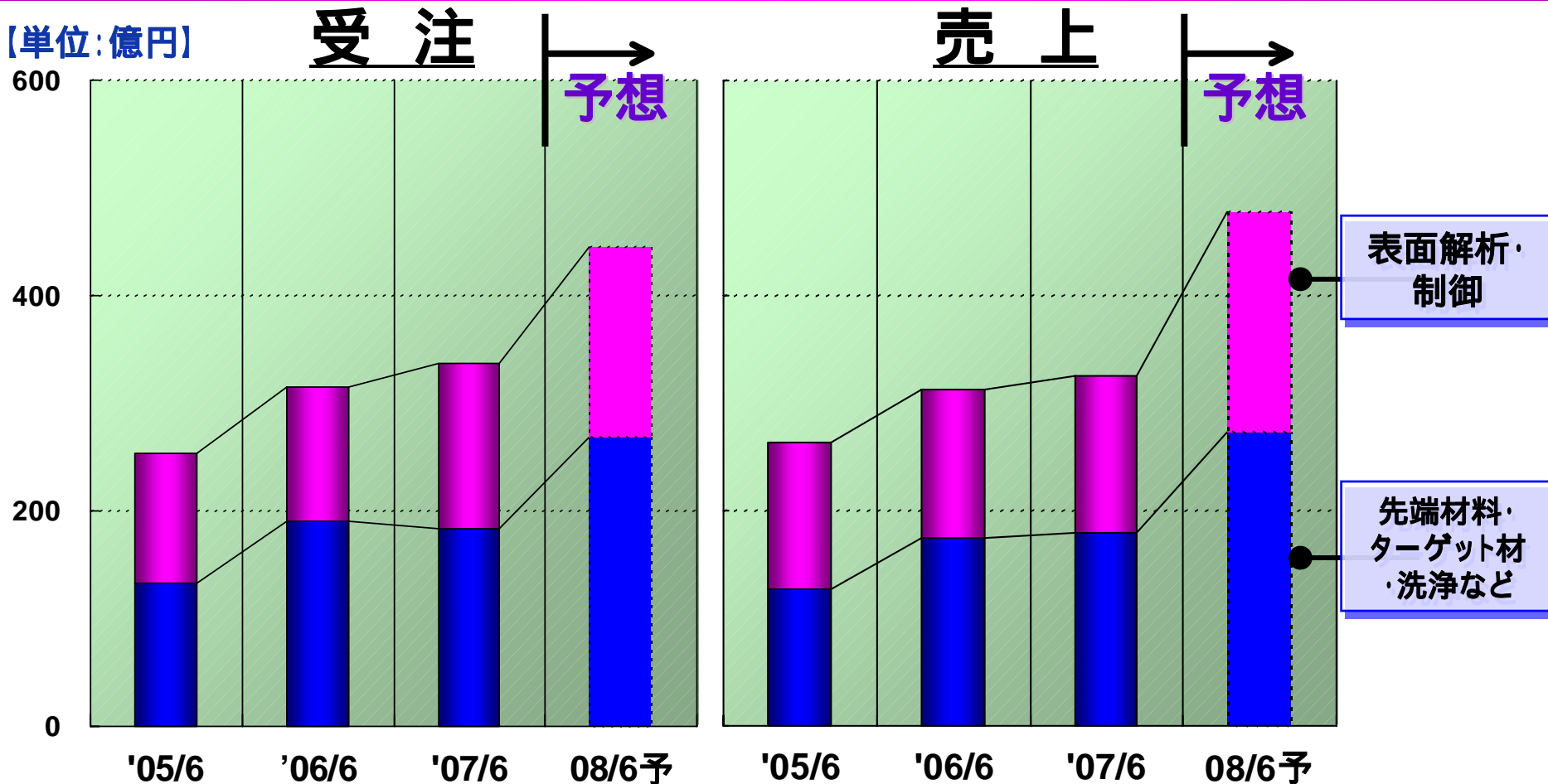


足元の受注環境

- ◆一部DRAMメーカーでの設備投資延期でスパッタ、自然酸化膜除去装置などの受注、売上が減少する見込み
- ◆ハイブリッドカー関連のパワーICやMEMSなどの受注が増加する見込み

その他の事業の推移・予想

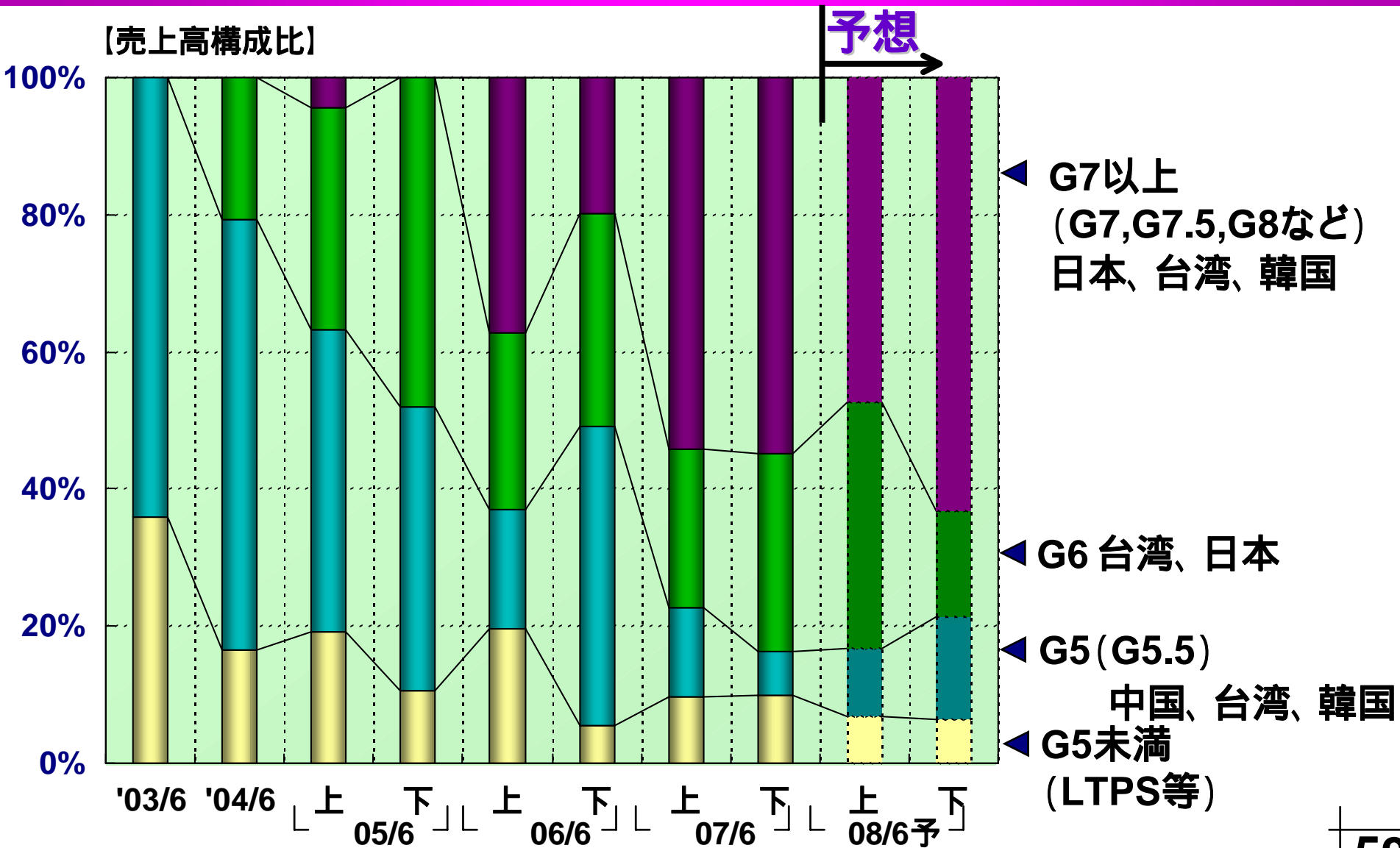
【単位:億円】



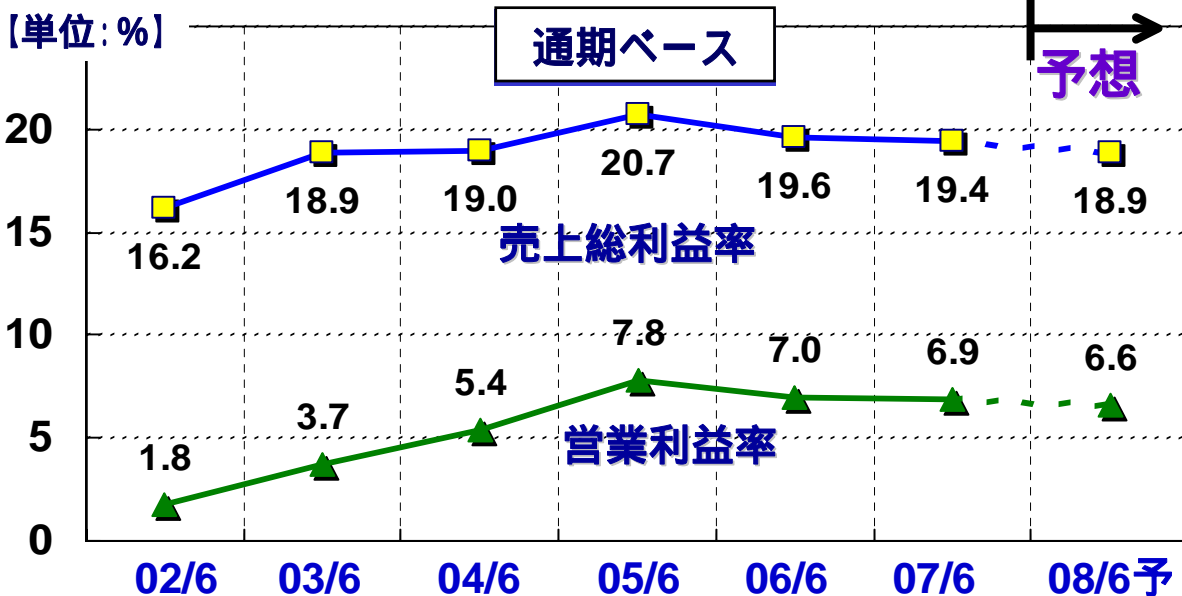
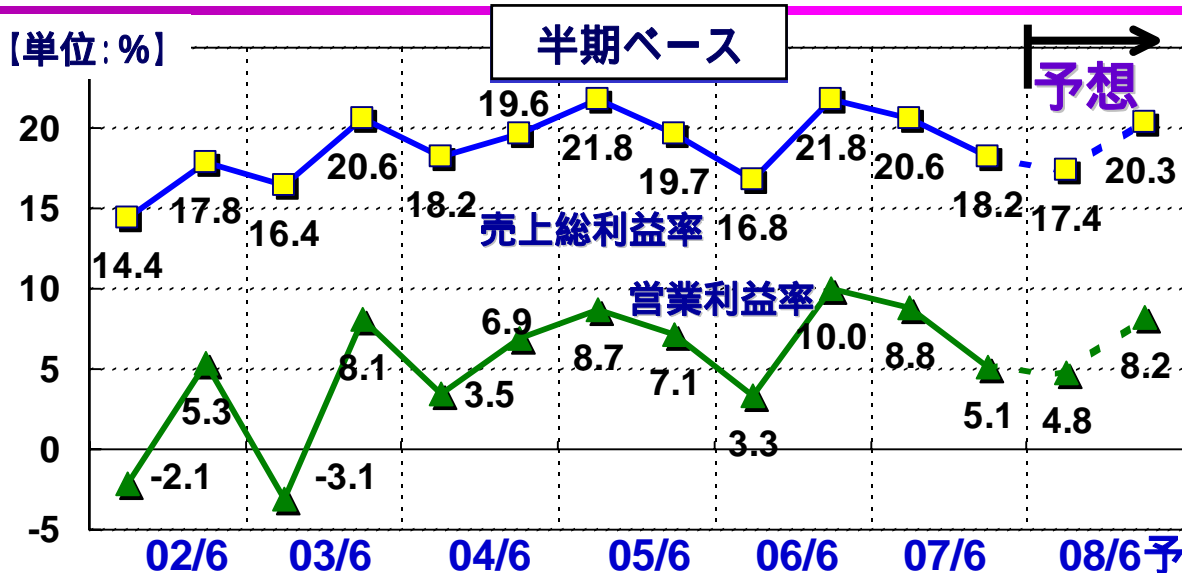
足元の受注環境

◆ FPD製造装置の大型化によりターゲット材や装置部品の洗浄ビジネスの受注、売上が大幅に増加する見込み

液晶ディスプレイ製造装置の世代の推移・予想



利益率の推移・予想

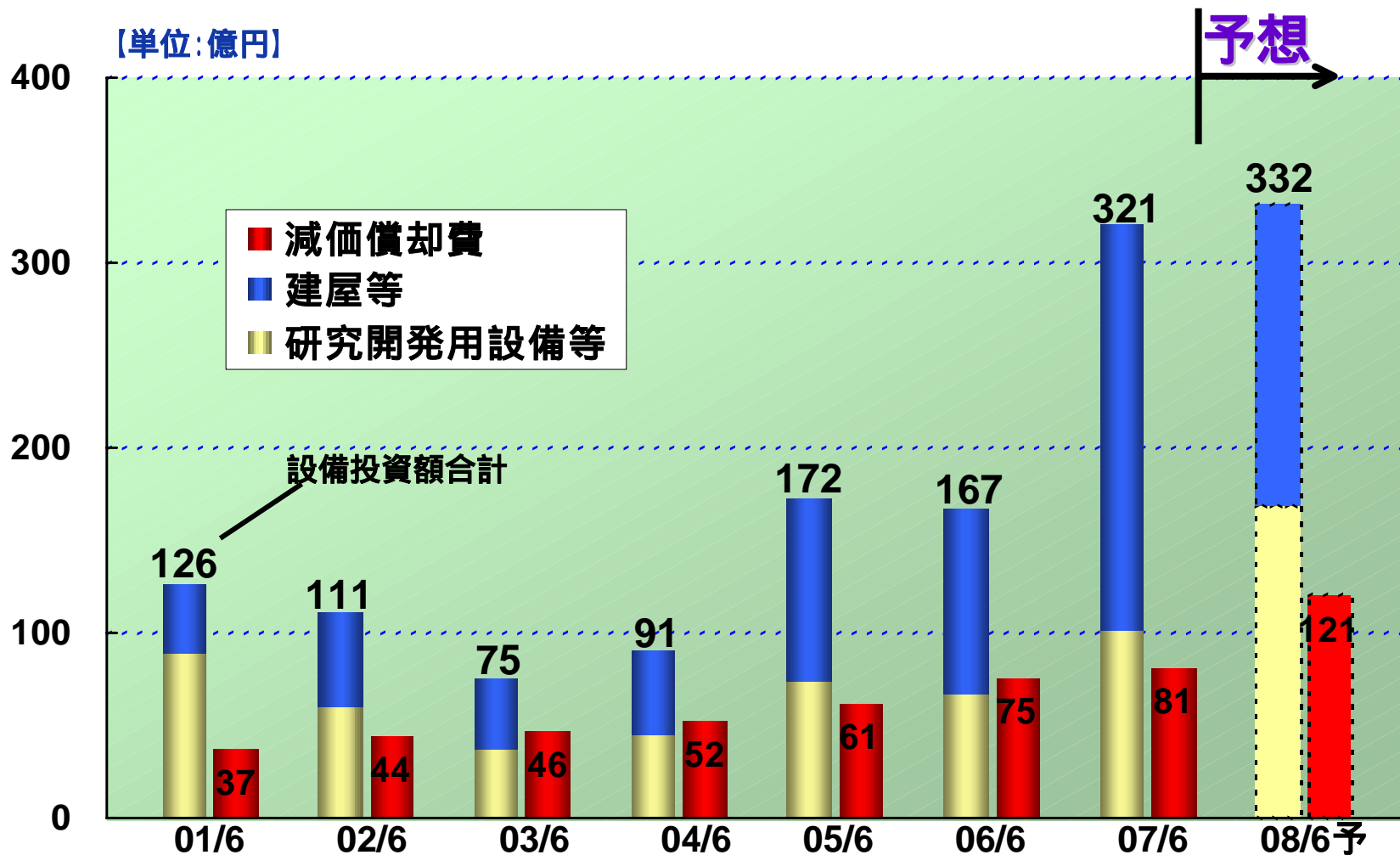


08/6期予想

- ▶ 上期
 - ・前期受注減による売上減で利益率低下
 - ・G5などの売上げ比率減少で利益率低下
 - ・半導体製造装置、サービスで利益下支え
- ▶ 下期
 - ・縦型スパッタ装置の売上比率増加で利益増
 - ・サービス、ターゲット、一般産業機器などで利益下支え
- ▶ 通期
 - ・生産改革(内製化、標準化、先行集中調達など)の推進でコストダウン
 - ・半導体製造装置売上減による利益率低下

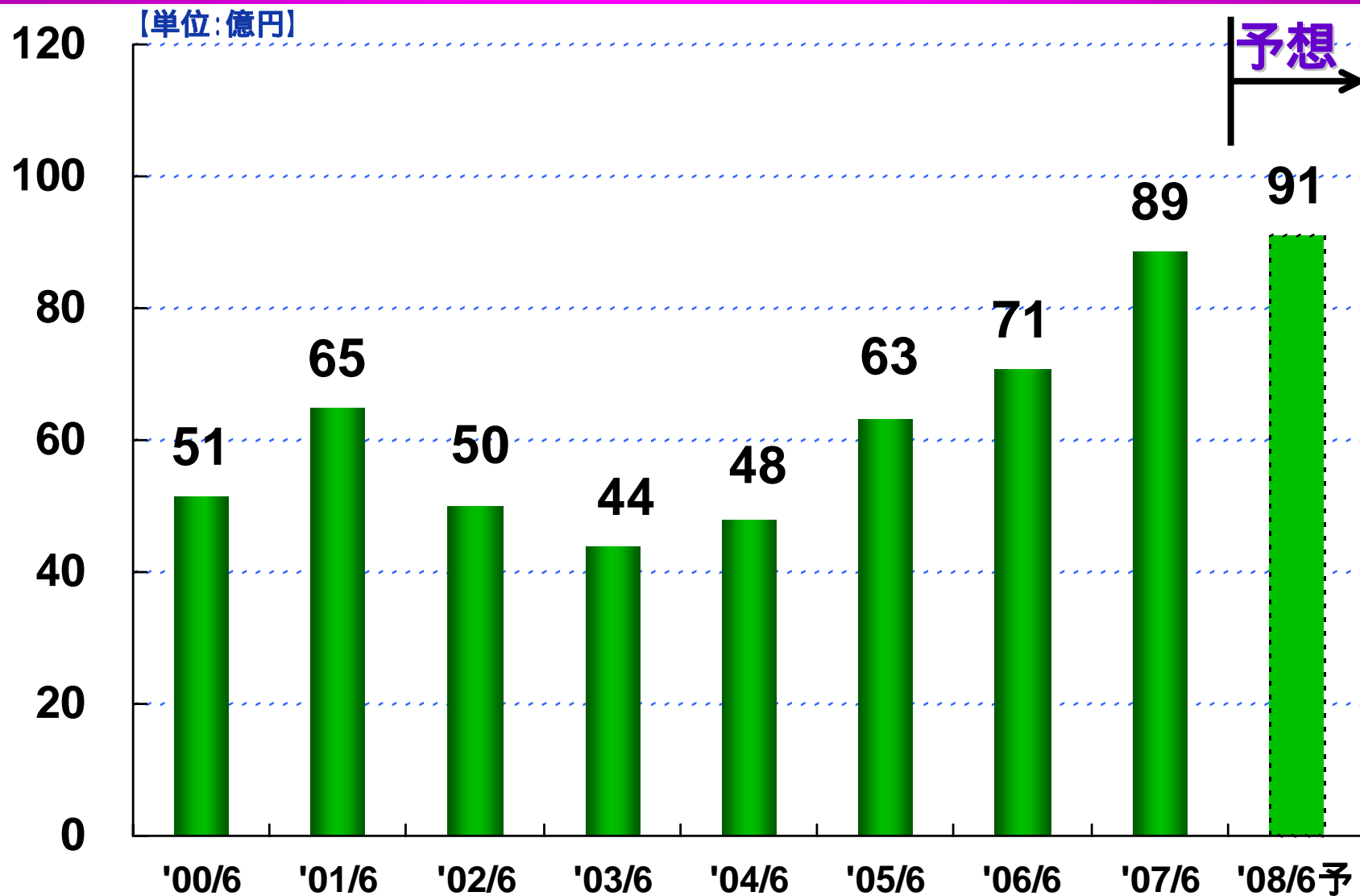
【小数点以下第2位は四捨五入】

設備投資、減価償却費の推移



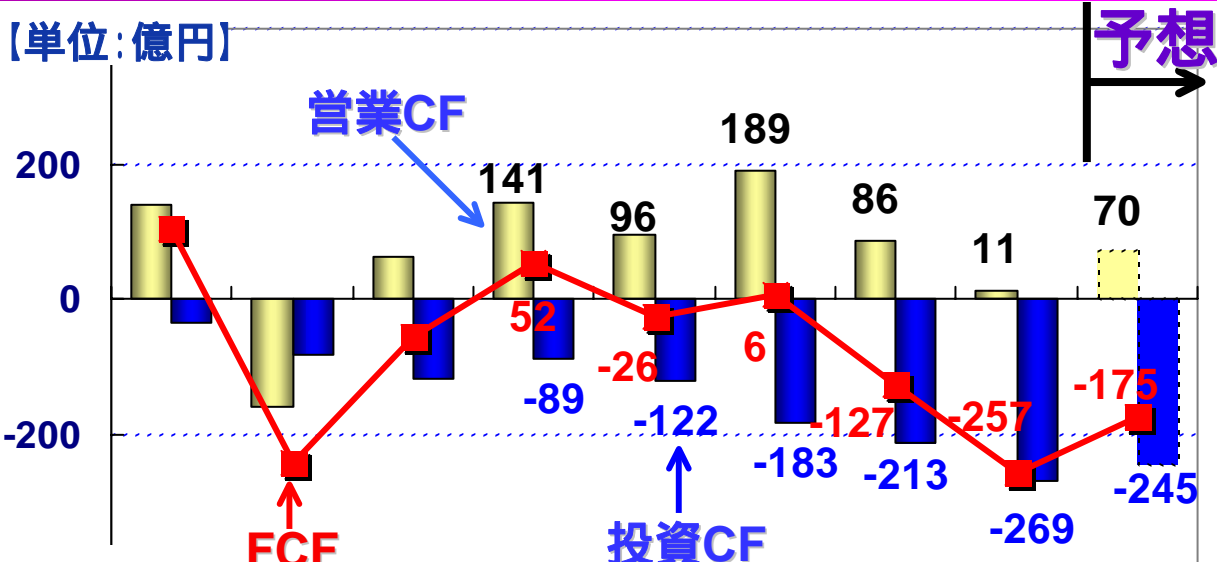
【小数点以下は四捨五入】

研究開発費の推移



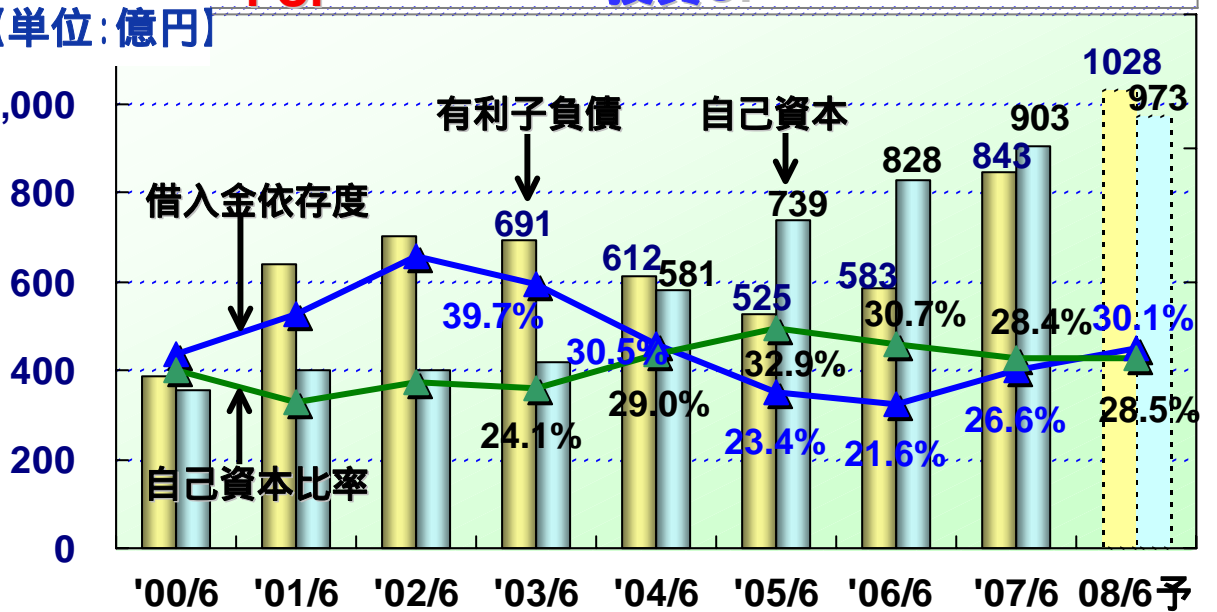
【小数点以下は四捨五入】

キャッシュ・フローと有利子負債の状況



営業CF: 70億円

- 営業CFの獲得に注力
 - ▶収益力の向上
 - ▶生産効率のアップ
- 資金効率を高める



投資CF: 245億円

- 成長戦略投資を実施
- ▶生産能力の増強
- ▶試作開発ラインの増設
- ▶研究開発設備等

今後の主な新設、増設工場および新拠点

- ターゲット材製造工場増設
- 機械加工工場増設



2007年8月竣工予定
2008年3月竣工予定

(青森県八戸市)

- ターゲット製造工場増設



2007年11月竣工予定
(鹿児島県霧島市)

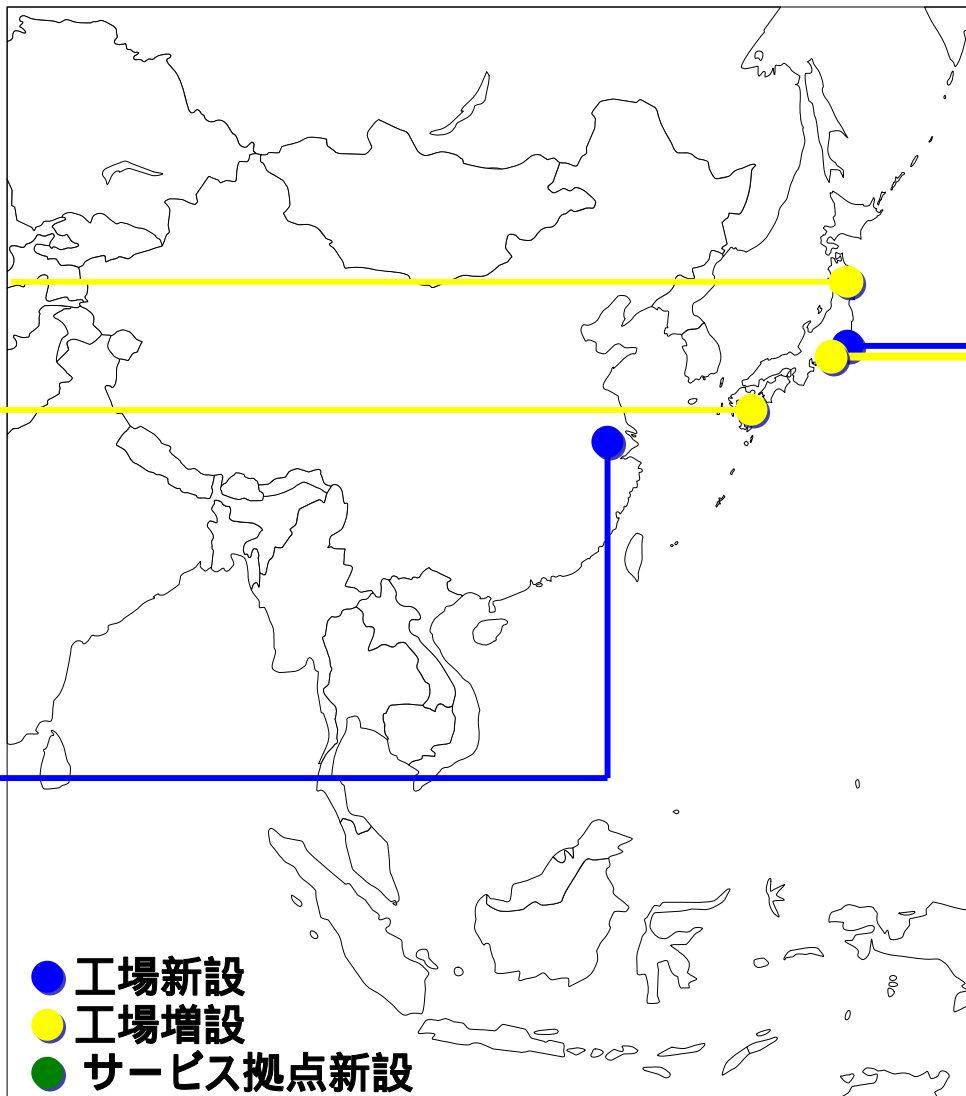
中国

- 中国統括管理会社
制御盤製造工場新設他



(2008年1月竣工予定)

(中国・上海市)



- 工場新設
- 工場増設
- サービス拠点新設

日本

- 千葉超材料研究所



(2008年7月竣工予定)
(千葉県富里市)

- ポストFPD製造装置
試作拠点



(第2期2008年7月
竣工予定)

■ 業績予想

▶ 2008年6月期連結業績予想

▶ 事業戦略

代表取締役社長 諏訪秀則

事業戦略

受注拡大

◆アルバックソリューションズの展開で受注拡大

コストダウン

◆生産改革推進
もの作り、内製化、
垂直統合

新商品開発

◆独創的最先端の
新製品を開発

グローバル化

◆中国、韓国、台湾以外の
インド、ロシア、中南米
など新規市場の開拓

財務戦略

◆キャッシュ・フロー
経営の推進

ポストFPD戦略

4つの柱を積極的に推進
(特に太陽電池、ターゲット)

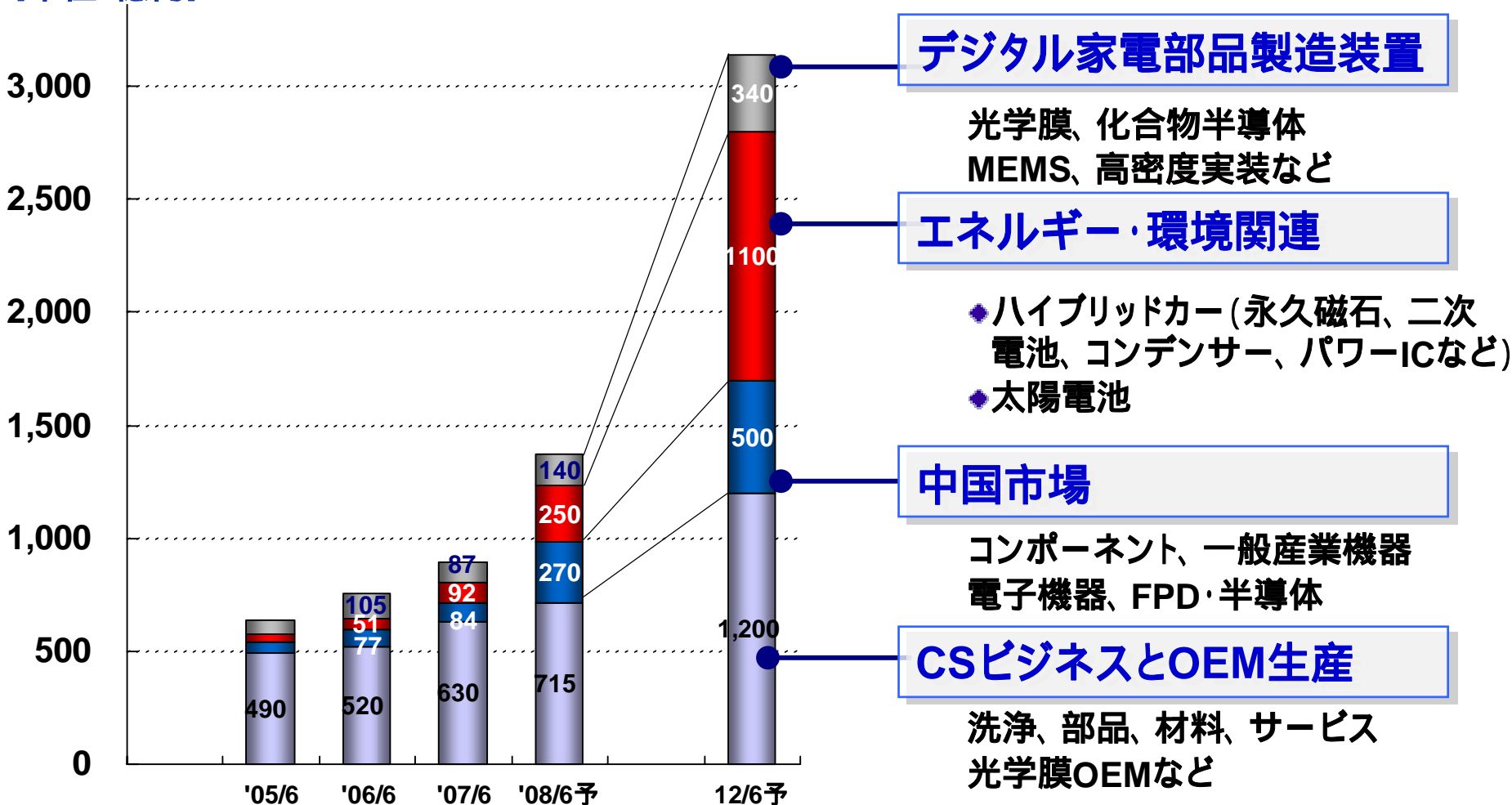
中長期の事業戦略

■ FPDの設備投資の成長は鈍化。ポストFPD戦略を強力に推進し、受注4000億円を目指す。

- ◆ MEMS、化合物半導体などのデジタル家電部品製造装置
- ◆ エネルギー・環境関連装置(ハイブリッドカー・太陽電池)
- ◆ 世界の製造業を牽引する中国
- ◆ 安定経営のためのカスタマーサポート(CS)とOEM生産

ポストFPD戦略(受注目標)

【単位:億円】



【上記の各項目の目標受注額は一部重複して合算されています。また、目標受注額は事業規模を判断するための参考値で、当社の連結受注額に合算されない額も含まれています。】

真空テクノロジーで

「つくる」をつくる、アルバック

ULVAC

本日は
ありがとうございました